

2 変数の p 進 L 関数について

九大理 小塚和人 (Kazuhito Kozuka)

§ 1. 序

K を類数 1 の虚 2 次体, $-d_K$ を K の判別式, \mathfrak{o} を K の整数環とする. E を K 上定義され, \mathfrak{o} による虚数乗法を持つ楕円曲線とし, ψ を E の K 上の量指標, f を ψ の導手とする. E の Weierstrass model

$$(1.1) \quad y^2 = 4x^3 - g_2x - g_3$$

を, $g_2, g_3 \in \mathfrak{o}$ で, (1.1) の判別式 $\Delta = g_2^3 - 27g_3^2$ が 64 を割る素因子のみで割り切れるように固定する. $P(z)$ を (1.1) に関する Weierstrass 関数, L を $P(z)$ の周期格子とし, $\Omega_\infty \in L$ を, $L = \Omega_\infty \mathfrak{o}$ となるように固定しておく.

p を $6d_K f$ と素で, K において $(p) = \mathfrak{p}\mathfrak{p}'$ と分解する有理素数とする. $K_{\mathfrak{p}}$ を K の \mathfrak{p} による完備化とし, p 進有理数体 \mathbb{Q}_p と同一視する. \mathbb{C}_p を $K_{\mathfrak{p}}$ の代数閉包の完備化, \mathcal{O} を \mathbb{C}_p の整数環とする. $\overline{\mathbb{Q}}$ を有理数体 \mathbb{Q} の複素数体 \mathbb{C} における代数閉包とし, $\overline{\mathbb{Q}}$

の \mathbb{C}_p への埋め込みを固定して, $\mathbb{Q} \subset \mathbb{C}_p$ とも見ることにする.

K の量指標 Ψ に対し, $L(\Psi, \rho)$ を Ψ に関する原始的な Hecke L 関数とする. K の整イデアル \mathfrak{o} に対し, $R_{\mathfrak{o}}$ を K の ray class field mod \mathfrak{o} とする. \mathfrak{o} が Ψ の導手で割り切れる時, 各 $\sigma \in \text{Gal}(R_{\mathfrak{o}}/K)$ に対し, $L_{\mathfrak{o}}(\sigma, \Psi, \rho)$ を Ψ と σ に対する部分ゼータ関数とする.

K の原始的な類指標 χ , 及び整数 $0 \leq j < k$ に対し,

$$(1.2) \quad L_{\infty}(\overline{\Psi^{k+j}\chi}, k) = (1 - \Psi^{k+j}\chi(\mathfrak{g})/N_{\mathfrak{g}^{j+1}})(1 - \overline{\Psi^{k+j}\chi}(\mathfrak{g})/N_{\mathfrak{g}^k}) \\ \times (2\pi/\sqrt{d_k})^j |\Omega_{\infty}|^{-2j} L(\overline{\Psi^{k+j}\chi}, k)$$

とおく.

Damerell の定理により, (1.2) の右辺は \mathbb{Q} に属する. ここでは (1.2) を本質的な値として補間する 2 変数の p 進巾級数を構成し, それを用いた K のアーベル拡大の類数公式を紹介させて頂きます.

§2. Eisenstein 級数の p 進的性質

整数 $k \geq 1$ に対し,

$$K_k(z, \rho) = \sum_{w \in L, w \neq -z} (\bar{z} + \bar{w})^k |\bar{z} + \bar{w}|^{-2\rho}, \quad \text{Re}(\rho) > 1 + k/2$$

とし, これの全 ρ 平面への解析接続も $K_k(z, \rho)$ と書く. 整数 $k > j \geq 0$ に対し,

$$E_{j,k}(z) = (k-1)! (2\pi/\sqrt{d_k})^j |\Omega_{\infty}|^{-2j} K_{k+j}(z, k)$$

とおく. さらに, $E_k(z) = E_{0,k}(z)$ とおく.

$\sigma(z)$ を L の Weierstrass σ 関数とし, $\theta(z) = \Delta \exp(-6\Omega_2 z^2) \sigma(z)^{12}$

とおく. ここに, $\Omega_2 = \lim_{x \rightarrow 0^+} \sum_{\omega \in L - \{0\}} \omega^{-2} |\omega|^{-2x}$ である.

K の f と素な整イデアル \mathfrak{a} に対し,

$$\Theta(z, \mathfrak{a}) = \theta(z)^{N\mathfrak{a}} / \theta(\psi(\mathfrak{a})z)$$

とおく. $\Theta(z, \mathfrak{a})$ は, L を周期に持つ楕円関数で,

$$\Theta(z, \mathfrak{a}) = \Delta(L) / \Delta(\mathfrak{a}^{-1}L) \cdot \prod_{\ell \in \mathfrak{a}^{-1}L / L - \{0\}} \Delta(L) / (\rho(z) - \rho(\ell))^6 \in K(\rho(z)).$$

となる. ここに, $\Delta(L), \Delta(\mathfrak{a}^{-1}L)$ はそれぞれ格子 $L, \mathfrak{a}^{-1}L$ の判別式である. \mathfrak{a} を \mathfrak{O} の単数で, \mathfrak{a} を法として 1 に合同なものの全体の個数とする.

$E_{j,k}(z)$ に関して, 次の性質が成り立つ ([8] §2);

(2.1) 整数 $k \geq 1, \alpha \in \mathfrak{O} \setminus L$ と, f と素な K の整イデアル \mathfrak{a} に対し,

$$(d/dz)^k \log \Theta(z+\alpha, \mathfrak{a}) \Big|_{z=0} = 12(-1)^{k-1} \{ N\mathfrak{a} E_k(\alpha) - \psi(\mathfrak{a})^k E_k(\psi(\mathfrak{a})\alpha) \}$$

となる.

(2.2) ψ^{k+j} の導手が $\mathfrak{g} \in \mathfrak{O}$ を割り切るとき, g_f と素な K の整イデアル \mathfrak{a} に対し,

$$E_{j,k}(\psi(\mathfrak{a})\Omega_{\mathfrak{a}}/\mathfrak{g}) = (k-1)! (2\pi/\sqrt{d_k})^j \Omega_{\mathfrak{a}}^{-k+j} (g^{k+j}/Ng^j) \cdot \mathcal{L}_{(\mathfrak{g})} L_{(\mathfrak{g})}(\mathfrak{O}_{\mathfrak{a}}, \psi^{k+j}, k)$$

となる. ここに, $\mathfrak{O}_{\mathfrak{a}} = (\mathfrak{O}, R_{(\mathfrak{g})}/K)$ である.

(2.3) 整数 $k > j \geq 0$ に対し, 次を満たす多項式 $P_{j,k}(X_1, \dots, X_{k+j}) \in \mathbb{Z}[X_1, \dots, X_{k+j}]$ が存在する.

$\deg P_{j,k} \leq j+1$, $\deg_{X_i} P_{j,k}(X_1, \dots, X_{k+j}) \leq j-1$ かつ

$$E_{j,k}(z) = (-E_1(z))^j E_k(z) + 2^{-j} P_{j,k}(E_1(z), \dots, E_{k+j}(z)).$$

(2.4) $g \in \mathcal{O}$ と, $g \nmid$ と素な K の整イデアル \mathfrak{a} に対し,

$$E_{j,k}(\Omega_\infty/g) \in K(E_g), \quad E_{j,k}(\Omega_\infty/g)^{(\mathfrak{a}, K(E_g)/K)} = E_{j,k}(\psi(\mathfrak{a})\Omega_\infty/g)$$

となる.

$g \in \mathcal{O}$ と, 整数 $n, m \geq 0$ に対し, $g_n = g\psi(\bar{g}^n)$, $g_{n,m} = g\psi(g^n \bar{g}^m)$

とおく. このとき, 次の命題が成り立つ.

命題 2.1. $g \in \mathcal{O}$, $(g, \bar{g}) = 1$ とする. このとき, 整数 $k > j \geq 0$ に対し, \mathbb{C}_p において,

$$\lim_{m \rightarrow \infty} \{ \bar{g}_m^j E_{j,k}(\Omega_\infty/g_m) - (-\bar{g}_m E_1(\Omega_\infty/g_m))^j E_k(\Omega_\infty/g_m) \} = 0$$

となる. さらに, $\lim_{m \rightarrow \infty} \{-\bar{g}_m E_1(\Omega_\infty/g_m)\} \in \mathfrak{g}^\times$ が存在し, これは g のとり方によらない.

$$\Omega_g = \lim_{m \rightarrow \infty} \{-\bar{g}_m E_1(\Omega_\infty/g_m)\} \text{ とおく.}$$

\hat{E} を E の演算を parameter $t = -2x/y$ で展開して得られる形式群とする. \hat{E} から乗法的形式群 G_m への g 上の同型 η を, $\eta(T) = \Omega_g T + \dots$ となるようにとることができる. $\lambda: \hat{E} \rightarrow G_m$ を \hat{E} の logarithm とする.

§3. 2変数 p 進 L 関数の構成

χ を K の類指標, f_x を χ の導手とする. R_x を $\text{Ker } \chi$ に対応する R_{f_x}/K の中間体とする. F が R_x を含む K のアーベル拡大のとき, χ を $\text{Gal}(F/K)$ の指標ともみることとする.

$\kappa_1: \text{Gal}(K(E_{g^m})/K) \cong \mathbb{Z}_p^\times$, $\kappa_2: \text{Gal}(K(E_{g^{2m}})/K) \cong \mathbb{Z}_p^\times$ をそれぞれ, $\text{Gal}(K(E_{g^m})/K)$, $\text{Gal}(K(E_{g^{2m}})/K)$ の E_{g^m} , $E_{g^{2m}}$ の作用を表す同型とする.

ν を \mathbb{Z}_p^\times の有限指標とすると, $\nu \circ \kappa_1$, $\nu \circ \kappa_2$ はそれぞれ $\text{Gal}(K(E_{g^m})/K)$, $\text{Gal}(K(E_{g^{2m}})/K)$ の有限指標になる. ν_g, ν_{g^2} をそれぞれ $\nu \circ \kappa_1$, $\nu \circ \kappa_2$ によって導入される K の類指標とする.

χ は, $\chi = \chi_1(\nu_x)_g (\nu'_x)_{g^2}$ と表すことができる. ここに, χ_1 は導手が p と素な K の類指標, ν_x, ν'_x は \mathbb{Z}_p^\times の有限指標である. ν_x, ν'_x はさらに, $\nu_x = \varphi \omega^{i_1}$, $\nu'_x = \varphi' \omega^{i_2}$ と分解される. ここに, φ, φ' は \mathbb{Z}_p^\times の第 2 種指標, ω は Teichmüller 指標, i_1, i_2 は $\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z}$ の元である.

$f_x = g_x \bar{g}^{m_x} \bar{g}^{n_x}$, $(g_x, p) = 1$ とする. g_x は χ_1 と (i_1, i_2) にのみ依存し, $R_{x_1} \subset K(E_{g_x})$ となる. g_x を g_x の生成元とする. ν_x, ν'_x の導手はそれぞれ p^{m_x}, p^{n_x} となる.

整数 $m \geq 1$ と, p と素な K の整イデアル \mathfrak{a} に対し, $\Theta(z + \Omega_{g^m}/\mathfrak{a}) \in K(E_{g^m})(\beta(\mathfrak{a}), \beta'(\mathfrak{a}))$ となり, 従って, 各 $\sigma \in \text{Gal}(K(E_{g^m})/K)$ に対し, 関数 $\Theta(z + \Omega_{g^m}/\mathfrak{a})^\sigma$ が自然に定義される.

$$\Lambda_m(z, \mathfrak{a}) = \prod_{\sigma \in \text{Gal}(K(E_{g^m})/R_{x_1}(E_{g^m}))} \Theta(z + \Omega_{g^m}/\mathfrak{a})^\sigma$$

とおく. これは, $R_{\lambda_1}(E_{\mathbb{Z}^m})$ 係数の $f(z)$ と $f'(z)$ の有理関数になる.

I_{λ_1} を $\mathfrak{O}_{\mathbb{P}^1, \lambda_1}$ と素な K の整イデアル全体の集合とし,

$$\mathcal{S}_{\lambda_1} = \left\{ \mu: I_{\lambda_1} \rightarrow \mathbb{Z} \mid \mu(n) = 0 \text{ for almost all } n \in I_{\lambda_1}, \sum_{n \in I_{\lambda_1}} \mu(n)(Nn-1) = 0 \right\}$$

とおく. 各 $\mu \in \mathcal{S}_{\lambda_1}$ に対し,

$$\Lambda_m(z; \mu) = \prod_{n \in I_{\lambda_1}} \Lambda_m(z, n)^{\mu(n)}$$

とおく. さらに,

$$C_{m, \mu, \lambda_1}(T) = \Lambda_m(\psi(\beta)^{-m} \lambda(T); \mu), \quad g_{m, \mu, \lambda_1}(T) = \lambda'(T)^{-1} \frac{d}{dT} \log C_{m, \mu, \lambda_1}(T)$$

とおく. $C_{m, \mu, \lambda_1}(T), g_{m, \mu, \lambda_1}(T)$ は共に, $R_{\lambda_1}(E_{\mathbb{Z}^m})[[T]] \cap \mathcal{G}[[T]]$ に属する.

各 $\tau \in \text{Gal}(R_{\lambda_1}(E_{\mathbb{Z}^m})/K)$ に対し, $k_2(\tau)$ は $\text{mod } p^m$ で一意に定義され, 従って, $(1+T)^{k_2(\tau)}$ は $\text{mod } ((1+T)^{p^m} - 1)$ で一意に定義される. このとき, 次の命題が成り立つ.

命題 3.1. 各 $\sigma \in \text{Gal}(R_{\lambda_1}/K)$ に対し,

$$\lim_{m \rightarrow \infty} \sum_{\substack{\tau \in \text{Gal}(R_{\lambda_1}(E_{\mathbb{Z}^m})/K) \\ \tau|_{\mathbb{P}^1} = \sigma}} g_{m, \mu, \lambda_1}^{\tau}(T_1) (1+T_2)^{k_2(\tau)} \in \mathcal{G}[[T_1, T_2]]$$

が存在する.

命題 3.1 の極限級数を, $g_{\mu, \lambda_1}^{\sigma}(T_1, T_2)$ と書くことにする.

$$i = \eta^{-1}: G_m \cong \hat{E} \text{ とし,}$$

$$h_{\mu, \chi_1}(T_1, T_2) = \sum_{\sigma \in \text{Gal}(K_{\chi_1}/K)} \chi_1^{-1}(\sigma) g_{\mu, \chi_1}^{\sigma}(i(T_1), T_2)$$

とおく. さらに, $\tau(\nu_{\chi}^{-1}, J_{p^{n_x}}) = \sum_{a=1}^{p^{n_x}} \nu_{\chi}^{-1}(a) J_{p^{n_x}}^a$, $\tau(\nu'_{\chi}, J_{p^{n'_x}}) = \sum_{a=1}^{p^{n'_x}} \nu'_{\chi}(a) J_{p^{n'_x}}^a$
とおき,

$$(h_{\mu, \chi_1})_{(\nu_{\chi}, \nu'_{\chi}^{-1})}(T_1, T_2) = \tau(\nu_{\chi}^{-1}, J_{p^{n_x}})^{-1} \tau(\nu'_{\chi}, J_{p^{n'_x}})^{-1} \\ \times \sum_{\substack{1 \leq a \leq p^{n_x} \\ 1 \leq b \leq p^{n'_x}}} \nu_{\chi}^{-1}(a) \nu'_{\chi}(b) h_{\mu, \chi_1}(J_{p^{n_x}}^a(1+T_1)^{-1}, J_{p^{n'_x}}^b(1+T_2)^{-1})$$

とおく. ここに, 整数 $n \geq 0$ に対し, J_{p^n} は 1 の原始 p^n 乗根であるが, 以後これは, $i(J_{p^n} - 1) = -2\beta(\Omega_{\infty}/\psi(\beta^n)) / p'(\Omega_{\infty}/\psi(\beta^n))$ となるようにとられているものとする.

一般に, 各 $f(T_1, T_2) \in \mathcal{F}[[T_1, T_2]]$ に対し, \mathbb{Z}_p^2 上の \mathcal{F} 値 measure ν_f が対応しており ([7] §6), 各 $(j_1, j_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$ に対し, Γ 変換

$$\Gamma_f^{(j_1, j_2)}: \mathbb{Z}_p^2 \rightarrow \mathcal{F}$$

$$\Gamma_f^{(j_1, j_2)}(\alpha_1, \alpha_2) = \int_{\mathbb{Z}_p^2 \times \mathbb{Z}_p^2} \langle \alpha_1 \rangle^{\alpha_1} \langle \alpha_2 \rangle^{\alpha_2} \omega^{j_1}(\alpha_1) \omega^{j_2}(\alpha_2) d\nu_f$$

により定義される. ここに, $\alpha \in \mathbb{Z}_p^x$ に対し, $\langle \alpha \rangle = \alpha / \omega(\alpha)$ である. 乗法群 $1+p\mathbb{Z}_p$ の位相的生成元 u を固定すると, 中級数 $f^{(j_1, j_2)}(T_1, T_2) \in \mathcal{F}[[T_1, T_2]]$ が存在して,

$$\Gamma_f^{(j_1, j_2)}(\alpha_1, \alpha_2) = f^{(j_1, j_2)}(u^{\alpha_1} - 1, u^{\alpha_2} - 1)$$

となる. $U_j f(T_1, T_2) = f(T_1, T_2) - \nu_p \sum_{j=1}^{p-1} f(J(1+T_j)^{-1}, T_2)$, $D_j = (1+T_j)^{d_j/dT_j}$

($j=1, 2$) とおく. このとき, $(h_{\mu, \chi_1})_{(\nu_{\chi}, \nu'_{\chi}^{-1})}(T_1, T_2)$ の定義と, §2 で述べたことから, 次の命題が導かれる.

命題 3.2. $k_1 > -k_2 \geq 0$, $k_1 \equiv k_2 \equiv 0 \pmod{p-1}$ なる整数 k_1, k_2 に

対し,

$$\begin{aligned} \Gamma_{(h_{\mu, \chi_1})_{(v_{\chi_1}, v'_{\chi_1})}}^{(-1, 0)}(k_1-1, -k_2) &= (D_1^{k_1-1} D_2^{-k_2}) (U_1(h_{\mu, \chi_1})_{(v_{\chi_1}, v'_{\chi_1})}) \Big|_{(0,0)} \\ &= -12 g_{\chi_1}^{k_1} v_{\chi_1}(g_{\chi_1}) e_{g_{\chi_1}} [K(E_{g_{\chi_1}}) : R_{g_{\chi_1}}] \\ &\quad \times \sum_{\alpha \in I_{\chi_1}} \mu(\alpha) (N\alpha - \psi^{k_1} \bar{\psi}^{k_2} \chi(\alpha)) \\ &\quad \times \chi_1(v'_{\chi_1})_3 (g^{\alpha}) \psi^{k_1}(g^{\alpha}) \bar{\psi}^{k_2}(g^{\alpha}) \tau(v_{\chi_1}^{-1})_{p^{n_{\chi_1}}}^{-1} \\ &\quad \times \Omega_g^{1-k_1+k_2} (k_1-1)! L_{\infty}(\overline{\psi^{k_1-k_2} \chi}, k_1) \end{aligned}$$

となる.

$$g_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = h_{\mu, \chi_1}^{(i_1-1, -i_2)}(u^{-1}(1+T_1)-1, (1+T_2)^{-1}-1) \quad \text{とおく. このとき}$$

き,

$$(3.1) \quad g_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(\varphi(u)u^{a_1}-1, \varphi(u)u^{a_2}-1) = \Gamma_{(h_{\mu, \chi_1})_{(v_{\chi_1}, v'_{\chi_1})}}^{(-1, 0)}(a_1-1, -a_2)$$

となる.

各 $\alpha \in \mathbb{Z}_p^{\times}$ に対し, $\ell(\alpha) \in \mathbb{Z}_p$ を, $\langle \alpha \rangle = u^{\ell(\alpha)}$ となるものとする.

$$(3.2) \quad A_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = -12 \omega^{i_1}(g_{\chi_1}) e_{g_{\chi_1}} [K(E_{g_{\chi_1}}) : R_{g_{\chi_1}}] (1+T_1)^{\ell(g_{\chi_1})} \\ \times \sum_{\alpha \in I_{\chi_1}} \mu(\alpha) (N\alpha - (1+T_1)^{\ell(\psi(\alpha))} (1+T_2)^{\ell(\bar{\psi}(\alpha))} \omega^{i_1}(\psi(\alpha)) \omega^{i_2}(\bar{\psi}(\alpha)) \chi_1(\alpha))$$

とおく. $\mathcal{S}_{0, \chi_1} = \{ \mu \in \mathcal{S}_{\chi_1} \mid \alpha \in I_{\chi_1}, \chi_1(\alpha) \neq 1 \text{ のとき, } \mu(\alpha) = 0 \}$ とおき,

$H_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}$ を $\{ A_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \mid \mu \in \mathcal{S}_{0, \chi_1} \}$ によって生成される $\mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]]$ の

イデアルとする. このとき, [7] 補題 28 と同様に,

$$(3.3) \quad \begin{cases} H_{\chi_1}^{(i_1, i_2)} = \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] \quad (i_1, i_2) \neq (0, 0), (1, 1), & H_{\chi_1}^{(0, 0)} = T_1 \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] + T_2 \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] \\ H_{\chi_1}^{(1, 1)} = (T_1+1-u) \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] + (T_2+1-u) \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] \end{cases}$$

となる.

$$(3.4) \quad g_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = g_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) / \Omega_g A_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) (1+T_2)^{\ell(\psi(\bar{g}^{n_x}))}$$

とおく. これは, $\mu \in \mathcal{S}_{\chi_1}$ のとり方に無関係となる. 命題 3.2,

及び (3.1), (3.2), (3.3), (3.4) から, 次の定理が得られる.

定理 3.3. $g_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \in \mathcal{F}[[T_1, T_2]]$ で, $k_1 > -k_2 \geq 0, k_1 \equiv k_2 \equiv 0$

(mod $p-1$) なる整数 k_1, k_2 に対し,

$$g_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}(\psi(u)u^{k_1}-1, \psi(u)u^{k_2}-1) = (\psi^{k_1} \chi_1 (v'_x)_g) (g^{n_x}) \tau (v'_x, I_{p^{n_x}})^{-1} \\ \times \Omega_g^{-(k_1-k_2)} (k_1-1)! L_{\infty}(\psi^{k_1-k_2} \chi, k_1)$$

となる.

§4. 類数公式について

類数公式について説明する為に, まず, 1変数 p 進 L 関数に関する結果を述べる.

§3 と同様, χ を K の類指標とし, $\chi = \chi_1 (v_x)_g (v'_x)_g, v_x = \psi \omega^{i_1}, v'_x = \psi' \omega^{i_2}, f_x = g_x g^{n_x} \bar{g}^{n'_x}, (f_x, p) = (g_x, p) = 1$ とする.

$$a_{\chi_1, v'_x, i_1} = \begin{cases} -1 & (\chi_1 = v'_x = 1, i_1 = 0) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases} \text{ とおく. このとき, 次の命題が}$$

成り立つ.

命題 4.1. $g_{\chi_1, v'_x, i_1}(T) \in T^{a_{\chi_1, v'_x, i_1}} \mathcal{F}[[T]]$ が存在して, $k > 0,$

$k \equiv 0 \pmod{p-1}$ なる整数 k に対し,

$$g_{\chi, \nu_x, i} (\Psi(u)u^k - 1) = \Omega_g^{-k} \tau(\nu_x^{-1}, J_{p^{n_x}})^{-1} (k-1)! (\Psi^k \chi(\nu_x)_g) (g^{n_x}) \\ \times (1 - \Psi^k \chi(g)/N_g) \Omega_\omega^{-k} L(\overline{\Psi^k \chi}, k)$$

となる.

$$L_p(\chi, s) = (\chi(\nu_x)_g)^{-1} (g^{n_x}) g_{\chi, \nu_x, i} (\Psi(u)u^{s-1}) \text{ とおく.}$$

K の整イデアル \mathfrak{m} に対し, $Cl(\mathfrak{m})$ を K の ray class group mod \mathfrak{m} とする. $k_{\mathfrak{m}}$ を \mathfrak{m} に属する最小の正の有理整数とする. 各 $C \in Cl(\mathfrak{m})$ に対し, $\chi_{\mathfrak{m}}(C) \in R_{\mathfrak{m}}$ を [5] §2 で定義された ray class invariant とする.

$$S^{(p)}(\chi) = \sum_{C \in Cl(\mathfrak{m})} \chi^{-1}(C) \log_p \chi_{\mathfrak{m}}(C) \in \mathbb{C}_p$$

とおく. このとき, 次の命題が成り立つ.

命題 4.2. $\chi \neq 1$ のとき,

$$L_p(\chi, 1) = - (1/12 k_{\mathfrak{m}} e_{\mathfrak{m}} \tau(\nu_x^{-1}, J_{p^{n_x}})) (1 - \chi(g)/p) S^{(p)}(\chi)$$

となる.

H を K の有限次アーベル拡大, $h_H, R^{(p)}(H), d_{H/K}, W_H$ をそれぞれ, H の類数, H の p 進単数規準, H の K 上の相対判別式の生成元, H に属する 1 の根の個数とする. 各 $\chi \in \widehat{Gal}(H/K)$ に対し, χ が導入する K の原始的な類指標も χ と書くことにする.

$\alpha, \beta \in \mathbb{C}_p^\times$ に対し, $\alpha/\beta \in \mathcal{G}^\times$ のとき, $\alpha \sim \beta$ と書くことにする. このとき, 次の定理が成り立つ.

定理 4.3. $\prod_{\chi \in \widehat{G_{\mathbb{Q}}}(H/K) \setminus 1} L_p(\chi, 1)/(1-\chi(\beta)/p) \sim h_H R^{(p)}(H)/W_H \sqrt{d_{H/K}}$ となる.

χ_0 を K の自明な類指標とする. F_∞, F'_∞ をそれぞれ $K(E_{\mathbb{Q}^\infty})$, $K(E_{\mathbb{Q}^\infty})$ に含まれる K の \mathbb{Z}_p 拡大, F_n, F'_n をそれぞれ $F_\infty/K, F'_\infty/K$ の中間体で, K 上 p^n 次のものである. また, K_∞, K_∞^- をそれぞれ, K の cyclotomic \mathbb{Z}_p 拡大, anticyclotomic \mathbb{Z}_p 拡大, K_n, K_n^- をそれぞれ, $K_\infty/K, K_\infty^-/K$ の中間体で, K 上 p^n 次のものである. このとき, 次の系が成り立つ.

系 以下の (1)~(4) が成り立つ. (φ は第 2 種指標を動く.)

$$(1) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(\varphi(u)-1, 0)/(1-\varphi(\varphi(\beta))/p) \sim h_{F_n} R^{(p)}(F_n)/\sqrt{d_{F_n/K}}$$

$$(2) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(0, \varphi(u)-1)/(1-\varphi(\overline{\varphi}(\beta))/p) \sim h_{F'_n} R^{(p)}(F'_n)$$

$$(3) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(\varphi(u)-1, \varphi(u)-1) \sim h_{K_n} R^{(p)}(K_n)/\sqrt{d_{K_n/K}}$$

$$(4) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(\varphi(u)-1, \varphi^{-1}(u)-1) \sim h_{K_n^-} R^{(p)}(K_n^-)/\sqrt{d_{K_n^-/K}}$$

文献

- [1] J. Coates and A. Wiles, On p -adic L -functions and elliptic units, *J. Austr. Math. Soc. (Series A)*, 26 (1978), 1-25.
- [2] E. de Shalit, *The Iwasawa Theory of Elliptic Curves with Complex Multiplication*, Perspec. Math. Orland, Academic Press 1987.
- [3] C. Goldstein, *Courbes elliptiques et theorie d'Iwasawa*, *Pub. Math. Dorsay*, 82-01.
- [4] K. Kozuka, Elliptic units and two variable p -adic L -functions, *Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ.*, 40 (1986) 77-90.
- [5] G. Robert, *Unités elliptiques*, *Bull. Soc. Math. France Mémoire*, 36 (1973).
- [6] A. Weil, *Elliptic functions according to Eisenstein and Kronecker*, Berlin - Heidelberg - New York, Springer 1976.
- [7] R. Yager, On two variable p -adic L -functions, *Ann. of Math.*, 115 (1982), 411-449.
- [8] R. Yager, p -adic measures on Galois groups, *Invent. Math.*, 76 (1984), 331-343.